

芸術科（美術Ⅰ）学習指導案

日 時 令和5年12月14日(木) 6限目
 対象学年 第1学年
 学 科 生活科学科・環境工学科 21名
 授業場所 32号教室
 授業者名 庄原実業高等学校 教諭 寺尾 美咲

教育目標	農業教育を通して新しい価値を創造し、地域、社会に貢献するクリエイターを育成します。				
育てたい生徒像		生命体の育成を基盤とした学びを通じて、実社会で生き抜くための知識・技術をもった生徒			
	○	広い視野で次世代社会に対応した課題を発見し解決することができる生徒			
		協働した学びを通して、自己の未来をデザインすることができる生徒			
身に付けさせたい資質・能力	専門的な知識や技術	課題を発見する力	提案する力	他者と協力する力	自己を分析する力
		○	○	○	
研究主題	「自ら課題を発見し、その解決策を提案できる力」を育てる授業づくり				

- 1 科目名 美術Ⅰ
- 2 題材名 「空間をデザインする」
- 3 題材について

本題材は、高等学校学習指導要領芸術（美術Ⅰ）の次の内容を受けて設定している。

A 表 現	表現に関する資質・能力を次のとおり育成する。
	(2) デザイン デザインに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 目的や機能などを考えた発想や構想 (イ) 目的や条件、美しさなどを考え、主題を生成すること。 (イ) デザインの機能や効果、表現形式の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練ること。 イ 発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能 (イ) 意図に応じて材料や用具の特性を生かすこと。 (イ) 表現方法を創意工夫し、目的や計画を基に創造的に表すこと。
B 鑑 賞	鑑賞に関する資質・能力を次のとおり育成する。
	(1) 鑑賞 鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 美術作品などの見方や感じ方を深める鑑賞 (イ) 目的や機能との調和の取れた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めること。
[共通事項] 表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力を次のとおり育成する。	
(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
ア 造形の要素の働きを理解すること。	
イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること。	

(1) 題材観

本題材は、校内の改善したい施設や場所を選び、課題を解決するデザインを機能や効果から考え、模型を制作し、提案するものである。

空間デザインでは、利用する人の視点に立ち、どうすればより快適な空間になるかを考えて表現することが必要になる。そのため、デザインがもつ機能や効果を生かし改善したい施設や場所の課題を解決する創造的な表現の構想を練る力を高めることができる。

また、鑑賞として図書館などの優れた公共建築を扱う。公共建築は、様々な人が利用するため、誰もが快適に過ごせるように採光、形、素材、色彩、動線などが工夫されているため、

客観的な視点から空間デザインの機能や役割について捉えることができ、身近な生活環境や人々が交流する場などにおける美術の働きについて学ぶことができる。

(2) 生徒観

本クラスの生徒は、今までに絵画・彫刻の題材を経験し、想像力豊かに自分独自の発想をし、表現することができている。一方、デザインの題材は、生徒にとって高校では初めて経験するものである。

生徒は、中学校の美術科において、ポスターやサイン等の視覚伝達に関するデザインについて学んだ経験は十分ある。そのため、視覚伝達に関するデザインにおける、公共性や伝達性を考えて視覚的に情報を伝えるための形や色彩などによるコミュニケーションの有用性についての理解はある。しかし、空間デザイン等の環境に関するデザインについて学んだ経験は少ない。そのため、公共の施設等の環境に関するデザインにおいて身近な生活環境や人々が交流する場などから課題を発見し、生活を美しく豊かにする観点から、デザインがもつ機能や効果を生かして課題解決が図られていることについての理解は低い。

(3) 指導観

指導に当たっては、生徒が目的や計画を明確にもって制作できるように工夫する。具体的には、改善したいと考えた課題のある施設や場所を変容させることによって、その施設や場所を使う人の気持ちにどのような変化を起こそうとしているのかを考えさせる。そして、アイデアスケッチを終えた段階で、チームが見付けた課題について確認し、課題が明確でない場合やデザインに課題解決の要素が見られない場合、会話を通して生徒が感じた課題を引き出して言語化し、デザインに反映するよう助言する。さらに、デザイン案の中で採光、形、素材、色彩、動線の5つの観点について、どのような計画を立てているのかを生徒に質問し、考えを明確にさせる。

模型の制作段階では、作りながら思いついた工夫をデザインに取り入れることが考えられるが、その際も、その場所の機能についてよく考え、目的を見失わないように助言する。

4 題材の目標

- (1) ・光、形、素材、色彩といった造形の要素の働きを理解する。 <共通事項>
・表現方法を創意工夫し、目的や計画を基に創造的に表す。(A表現(2)イ)
- (2) ・空間のデザインの機能や効果について考え、課題を発見し、解決するための表現の構想を練る。(A表現(2)ア)
・目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深める。(B鑑賞(1)(i))
- (3) ・創意工夫しながら主体的に空間デザインによる課題解決に取り組もうとする。
・主体的に作品の目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者がデザインに込めた心情や意図、創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとする。

5 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 光、形、素材、色彩といった造形の要素が感情にもたらす効果、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風で捉えることを理解している。 技 表現方法を創意工夫し、目的や計画を基に創造的に表している。	発 空間のデザインの機能や効果について考え、目的や条件、美しさなどを考え主題を生成し、課題を解決するための表現の構想を練っている。 鑑 目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。	態表 創意工夫しながら、主体的に空間デザインによる課題解決に取り組もうとしている。 態鑑 主体的に作品の目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者がデザインに込めた心情や意図、創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

6 指導と評価の計画（全 11 時間）

次	学習内容（時数）	評			価	
		知	思	主	評価規準	評価方法
1	鑑賞（1 時間） 空間デザインの鑑賞により、快適な空間をデザインするための見方・考え方を深める。また、本校校舎の課題を発見する。		○鑑	○態鑑 ↓	空間のデザインの機能や効果を基に、校舎の課題を発見している。【思・判・表】 主体的に公共建築を鑑賞して、造形の要素が感情にもたらす効果や全体のイメージをや作風で捉えることを理解しようとし、造形的なよさや美しさを感じ取ろうとしている。【主】	ワークシート、活動の様子（鑑、態鑑）
2	構想（2 時間） 本校校舎の課題からデザインの主題を設定し、アイデアスケッチを行う。方眼紙に 1/50 スケールの図面を作成して創造的な表現の構想を練る。		○発	○態表	空間のデザインの機能や効果について考え、課題を発見し、解決するための表現の構想を練っている。【思・判・表】 創意工夫しながら、主体的に空間デザインによる課題解決に取り組もうとしている。【主】	ワークシート、アイデアスケッチ（発、態表）
3	表現（4 時間） 発想や構想したことを基にスチレンボードで 1/50 スケールの模型を創造的に作る。	○知・技	↓		光、形、素材、色彩といった造形の要素の働きを理解し表現方法を創意工夫し、目的や計画を基に創造的に表している。【知・技】	制作途中の作品（知・技）
4	自己評価（1 時間）（本時） 班の作品を自己評価する。ル・コルビュジェの建築からアイデアを収集し、班の作品を再検討する。完成に向けた計画を立てる。	○知	○発		光、形、素材、色彩といった造形の要素が感情にもたらす効果、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風で捉えることを理解している。【知】 空間のデザインの機能や効果について考え、課題を発見し、解決するための表現の構想を練り直している。【思・判・表】	ワークシート、活動の様子（知、発）
5	仕上げ（2 時間） 模型を仕上げる。	○知・技	↓	↓	表現方法を創意工夫し、目的や計画を基に創造的に表している。【技】	作品（知・技）
6	提案（1 時間） デザインを提案する。投票を行い、グッドデザイン賞を決定する。		○鑑	○態鑑 ↓	目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。【思・判・表】 主体的に作品を鑑賞して、作者がデザインに込めた心情や意図、創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。【主】	パフォーマンス課題、発言の内容（鑑、態鑑）

7 本時の展開

(1) 本時の目標

作品を造形の要素から自己評価し、ル・コルビュジェの建築のアイデアを参考にしながら、主題に応じて構想を練り直す。

(2) 本時の展開

	●生徒の学習活動 □教授活動	△予想される生徒の反応 ▲指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入	●ノートルダム・デュ・オー礼拝堂の写真を見て、何のための建物かを予想する。 □作者のル・コルビュジェを紹介し、「祈りの場」という主題と「色とりどりの光を取り入れる」という工夫を確認する。	▲ヒントは「窓」として、内側の写真を見せる。	
	目標：作品を造形の要素から自己評価し、ル・コルビュジェの建築のアイデアを参考にしながら、主題に応じて構想を練り直す。		
展開	●制作チームに分かれる。自分たちのアイデアを整理する。 ①その場所の課題は何だったか？ ②色、形、素材、光、動線の項目について、どのように工夫をしているか ●工夫の余地がある項目に○をつける。 □5～6人1班になる。1班につき1つずつ別々のル・コルビュジェ作品の資料を配付する。 ●作品について資料をもとに説明する「解説役」を一人決める。 ●他の班員は別の班へ行き、それぞれ違う作品について説明を聞いて情報を集める。 ●もとの班に戻り、情報を共有する。ワークシートに情報をまとめる。	△書けない項目がある。 ▲書けない項目は飛ばして書くよう指示する。 △丸を付けるところがない。 ▲②で書けなかった項目や、あまり書くことがなかった項目に丸をするよう指示する。 ▲人数が少ない制作チームは4～5人になるようにまとめる。 ▲ル・コルビュジェがデザインに込めた心情や意図、創造的な表現の工夫についてまとめさせる。 ▲ル・コルビュジェがデザインに込めた心情や意図が、表現の工夫（色、形、素材、光、動線）としてどのように表れているかをまとめさせる。	光、形、素材、色彩といった造形の要素が感情にもたらす効果、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風で捉えることを理解している。【知】（活動の様子、ワークシート）

	●再度制作チームに分かれる。自分たちのデザインが、主題に応じてよりよいものになるためには、どのようにすればいいかを再検討する。 ・再検討する視点 ①使う人にどのような気持ちになってほしいか？ ②色、形、素材、光、動線のうち、工夫の余地がある項目についてアイデアを練り直す。	▲アイデアスケッチを見ながら、本時のワークシートの情報と照らし合わせ、自分たちがデザインに込めようとした心情と意図（使う人にどのような気持ちになってほしいか）を実現するために、ル・コルビュジェの表現の工夫で参考になることはないか考えてみるよう指示する。	光、形、素材、色彩といった造形の要素が感情にもたらす効果、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風で捉えることを理解している。【知】（活動の様子、ワークシート） 空間のデザインの機能や効果について考え、課題を発見し、解決するための表現の構想を練り直している。【思・判・表】（活動の様子、ワークシート）
まとめ	●本時の振り返りをワークシートに記入する。		